

第4次厚真町総合計画改訂版



ごあいさつ



厚真町長 宮坂 尚市朗

厚真町では、平成28年に策定した「第4次厚真町総合計画」において、まちの地勢的・文化的な背景をもつ「大いなる田園のまち」を普遍的テーマとしながらも、時代の要請である全ての分野におけるネットワーク化・連携を意識した「あつまる・つながる・まとまる『大いなる田園のまち』あつま」をめざすべき将来像として、人口減少に端を発する諸課題に対して、持続する地域社会と地方創生の実現を目指してまいりました。

その結果、町の人口推移は5年連続の社会増を達成し、平成30年にはいよいよ人口増加の局面を迎えていました。「平成30年北海道胆振東部地震」が発生する直前の厚真町の情勢ですが、奇しくも同年春には北海道による厚幌ダムの試験湛水並びに国営かんがい排水事業の導水管通水試験が実施され、6月には厚真町統合簡易水道事業の竣工式が行われるなど、町民の長年の悲願が達成しつつありました。歴史的好事が続いていた同年の9月に発生した北海道で初めての震度7を記録した大地震は、本町を含む胆振東部3町に未曾有の被害をもたらし、多数の犠牲者を伴いながら、美しい厚真の風景を一変させ、すべての町民に深い悲しみを残しました。

震災間もない同年晩秋には当時の両陛下より直接お見舞いのお言葉を賜わるとともに、全国から寄せられたご支援や関係機関のご尽力に応じて、町民一致協力のもと困難な復旧・復興への道のりを歩みはじめ、既に2年9か月が過ぎようとしています。森林の再生や被災者の心の傷を癒すには、まだまだ時間と支援が必要ですが、令和2年早春より世界を覆う新型コロナウイルス感染症の拡大は、日本においても開催間近の東京オリンピック・パラリンピックをはじめ医療・経済などを取り巻く社会不安を増長さ

せています。いわゆるコロナ禍は日常を取り戻すことを喫緊の課題とする厚真町民の暮らしを更に困難なものとするのではないかと危惧しています。

北海道胆振東部地震などの度重なる自然災害と感染症パンデミック、少子高齢化が進行する時代背景や温暖化が進む地球環境、また目覚ましい技術革新をも踏まえつつ策定した「第4次厚真町総合計画改訂版」は、既存の基本構想を踏襲しつつも、第一に最優先課題である震災からの復旧・復興をめざす「復旧・復興計画」、第二に持続的発展を目標とする「第2期まち・ひと・しごと創生長期ビジョン・総合戦略」、第三に頻発する自然災害へ備えた防災・減災の取り組みを示す「強靱化計画」という3つの計画を総合計画の内包計画として一体的に作成しました。

胆振東部地震からの復旧・復興を一丁目一番地として、地方創生の推進、ポストコロナ社会の変容への対応、SDGs(持続可能な開発目標)理念の具現化、情報通信技術革命・Society5.0への適応、支えあい協働するコミュニティの再生など、山積する課題の解決に向けて各種施策や事業を効果的かつ重層的に展開することで、しなやかで持続的発展が可能なまちづくりをめざしてまいります。

胆振東部地震、新型コロナウイルス感染症と続いた災禍をともに乗り越え、厚真町の新たな時代を切り拓いていけるよう、町民の皆さんはじめ、関係機関の一層のご理解ご協力をお願いいたします。

この計画の策定にあたり、貴重なご意見、ご提言をいただきました町民の皆さん、まちづくり委員会、町議会、関係機関に対しまして、心よりお礼申し上げます。